

名 称	江別市体験活動ボランティア活動支援センター
所 在 地	〒067-0074 北海道江別市高砂町24-6
連 絡 先	TEL : 011-381-1062 FAX : 011-382-3434 URL : http://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/kyouiku/vol/vol.html

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 江別市 123,070人（平成18年4月1日現在）

江別市は、石狩平野の中央部に位置し、市街地の北東部には水量豊かな石狩川が流れ、一般的に平坦な地勢となっている。また、南西部には、市域の約10%（2,051ha）を占める世界有数の平地原生林として貴重な財産である野幌原始林（道立野幌森林公園）が、隣接する札幌市並びに北広島市まで拡がり、市民はもとより道民の憩いの場として親しまれている。

このほか本市は、“野幌レンガ”の名で古くからレンガの街として全国に知られており、レンガを使用した建造物などがたくさんある。また、市民の陶芸活動も盛んで、道内はもとより全国各地から陶芸家が集い開催される「やきもの市」では、たくさんの人で賑わう。

本市では、「人が輝く共生のまち」を将来都市像に置き、市民が地域の担い手としてまちづくりに参画し、誰もが「創造」「うるおい」「安全」を感じるまちづくりに取り組んでいる。

コーディネートした事例の名称、概要、特色

名称 「活動・体験学習：地域間交流事業」

平成14年度からの完全学校週5日制の実施などを背景として、地域で子どもを育てる環境の充実、人間性豊かな青少年の健全育成等がより一層求められ、地域の教育力を活用した総合的な推進を図るための取組の必要性が増してきているところである。

このような中、本支援センターにおいては、地域における活動を支援するとともに、地域間の交流を深め、心豊かにたくましく生きる子どもを育てる環境の充実を図ることを目的に、子どもたちに自然観察や体験活動を提供する「地域間交流事業」を実施した。

事業の内容としては、本市は江別地区・野幌地区・大麻地区の三つの地区に分かれており、それぞれの地区からモデル校として小学校1校ずつ選定（江別地区：豊幌小学校、野幌地区：野幌小学校、大麻地区：文京台小学校）し、各地域の自然資源や特性、人材を活かした様々な体験活動を週末や放課後を活用して提供したもので、子どもたちの健やかな成長を図るとともに、地域間の交流はもとより世代間の交流も深めることができた。

コーディネートの実際

「地域間交流事業」においては、各地域の学校・地域・家庭が主体的に参画していくことを基本に、各関係機関との連携を図りながら次の五つの事業をコーディネートした。

○自然観察・体験Ⅰ：「原始林ウォーク1」（野幌小学校地区）

野幌小学校は、野幌原始林に隣接しているという特性を活かし、野幌原始林の自然観察・散策を実施した。当日の運営は、同校並びに同校PTA、おやじの会などが主体となり、森林内の自然や動植物の生態系、先人と森林との関わりなど、解説をしながら原始林内を散策した。参加した児童や大人も自然とのふれあいを通じ、自然の偉大さとともに、人と自然との共存を再認識することができた。

○「サマーナイトフェスティバル」（文京台小学校地区）

この事業は、文京台小学校と同校のPTAやおやじの会、学生ボランティア団体などが連携して実施している「サマーナイトフェスティバル」に、他の地域の児童や大人が参加する形で実施した。同校には、市内小中学校で唯一天文観察設備が設置されており、カレーライスディナーのあと天文観察や夏の星座などの解説を受けた。当初キャンプファイヤーを予定していたが、天候の関係から体育館でゲームやフォークダンスを実施した。

○自然観察・体験Ⅱ：「原始林ウォーク2」（野幌小学校地区）

野幌小学校にて、再び野幌原始林での自然観察・散策を実施した。前回は夏に開催したが、今回は、秋の野幌原森林の自然や動植物の生態系の解説を交えながら散策した。また、森林内に生息している草木を利用した「笛づくり」を体験し、おのおの作成した笛の音色を披露した。

○農業体験：「収穫祭」（豊幌小学校地区）

豊幌小学校は、市内でも農業地域にあり、同校並びに同校PTAや農業団体などが主体となり、先人から受け継いだ“わらじ”作りや臼や杵を使った餅つきなどの体験活動を実施した。“わらじ”作りでは、地域の大人から指導を受け、子どもたちも真剣に取り組み、餅つきでは、地域で生産されたお米や野菜などを提供してもらい、自分たちで作ったあんこ餅や雑煮を食べ楽しい時間を過ごした。

○「スノーフェスティバル」（文京台小学校地区）

この事業は、文京台地区の自治会の事業に、各地区の児童や大人が参加する形で実施した。季節的に家にこもりがち子どもたちに、北国特有の雪を活かしたゲームなどで、外遊びの楽しさを体験した。自治会のイベントということで、地域の幼児も多数参加し、最後は文京台小学校の体育館にて、みんなでカレーライスを食べ終了した。

各地区の関係者の協力のもと、いずれの事業も好評であり、自分たちの住み慣れた地域を離れた体験活動を通じ、各地域の特性を知ることができ、各地域の子どもたちはもとより、大人と関わりを持つことにより、地域間・世代間の交流を深めることができた。

地域間交流事業における支援センターとしての活動内容は、事業の企画・立案、学校・地域関係機関との連絡調整、PR等の広報活動、講師派遣要請等を行うとともに事業運営支援を行い、3地域での活動の推進及び地域間の活動交流を進めるため、本市の資源豊かな自然と人材を活用した体験活動を中心に、子どもはもとより大人同士のつながりを深め、情報の

共有など地域で子どもを受け入れる組織・環境づくりの手助けとなるよう努めた。

地域間交流事業においては、各地域の学校・地域・家庭が主体的に参画していくよう事業運営に携わってもらおうこととしているが、関係者の異動により事業が停滞しないよう、各地域との連絡調整の窓口を一本化し、連携を密にしながら必要に応じ関係機関と協議していくよう留意した。

事業の成果としては、特に地域教育力の育成促進（地域の子どもを受け入れ、見守っていく環境づくりの啓発）が図られ、地域コミュニティの醸成とともに、地域間の交流による居住地域の枠を越えた子どもの居場所づくり、ネットワークづくりに繋がったことがあげられる。

今後の課題としては、地域の運営組織体制（コーディネートと実践）のさらなる整備・充実と運営経費の確保、地域ボランティアの推進とその有効活用といった点があげられる。

今後は、前述した課題を踏まえ、それを克服すべき方向性について検討していくとともに、少しずつ地域を拡大していきながら、心豊かにたくましく生きる子どもを育てる環境のより一層の充実と地域ネットワークの拡張に努めていきたい。



自然観察：原始林ウォーク



サマーナイトフェスティバル



農業体験：収穫祭



スノーフェスティバル

執筆者職・氏名： 江別市教育委員会 生涯学習係長 阿部 徳樹

